

小牧基地航空祭で空中給油の模擬飛行

二月二十二、二十三日の小牧基地航空祭が行われました。従来は一〇〜一月に行われてきたものです。今年度は大規模な演習などで小牧基地所属の部隊が各地に展開しており、この時期の開催になったようです。

今回の航空祭展示の売り物に、空中給油飛行の模擬飛行がありました。

KC767給油機とC130による空中給油模擬飛行及びKC130と救難ヘリ二機との空中給油を想定した編隊飛行です。

実際の給油は行われませんが、



KC767は給油ブームを下ろし実際に給油できるくらいまで接近しての飛行です。C130は実際の給油用の装置（KC767とは違いブームではなくホ

ースのようなもの）は作動させずに、救難ヘリ二機との給油を想定した接近した編隊飛行でした。

写真では少し見づらいですが、KC767の後部が給油用のノズルが下りているのがわかると思います。飛行は真宮名古屋空港の滑走路上空で実施されました。実際に見ると、かなり眼前で飛行しているというような感覚です。

C130とヘリとの編隊も同様に至近距離での編隊です。空中給油の訓練は通常、定められた訓練空域（KC767は多くは日本海上空など）やかなりの高度や洋上などでおこなわれます。今回は、給油そのものは行いませんでしたが、かなり実戦を意識したもののようです。これだけ接近しての編隊飛行は、かなり危険なものと言わざるを得ません。

空中給油は双方の技量の習熟が必要なもの、十分な訓練が必要になります。米軍との共同訓練でも現在は必ずといっていいほど空中給油の訓練が取り入れられています。

実際の給油は行わないにしろ、かなり危険な編隊飛行なのです。そのため小牧基地では航空祭に先立って、連日の訓練を行いました。それは基地上空にとどまらずに、周回しながら何度も行われました。名古屋空港の周辺の広範囲で目撃されています。その印象は、やはり通常の編隊飛行の訓練ではなく、

異種の航空機（ジェットとKC767とプロペラのKC130、KC130とヘリ）による超接近編隊飛行であり、かなり異様であるし大丈夫なのかという危惧を抱かざるをえないものでした。

安全性に問題があるこうした飛行を市街地上空や大勢の人間が集まるイベントで行うことはあってはならないことです。

「給油もできる輸送機」などごまかして導入したKC767ですが、今回の展示飛行は、あからさまに長距離攻撃ができる体制を整えていることへのアピールであり、集団的自衛権や敵基地先制攻撃を認めようという動向と無縁ではありません。

今回の航空祭では災害出動も強調しています。その関連で東松島市から関係者を呼び自治体と自衛隊、基地との緊密な連携をアピールしています。

東松島市はブルーインパルス所属の松島基地のあるところ。東松島市との密接な交流のさきに懸案のブルーインパルスの小牧基地航空祭での展示飛行も意図されているようにも思います。

（佐々木）